

九州運輸局メールマガジン

平成22年6月10日 第85号（発行日：毎週木曜日）

～九州の明日を拓く運輸と観光～

九州運輸局HPアドレス <http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>

いつも九州運輸局メールマガジンをご覧いただき誠にありがとうございます。

目次

1 九州運輸局ホームページアップ情報（6月3日～6月9日掲載分）

総合案内

各種情報

分野別情報

報道発表

お知らせ

2 現場レポート

3 リレーコラム【佐世保自動車検査登録事務所長 江頭 国之】

1 九州運輸局ホームページアップ情報（6月3日～6月9日掲載分）

総合案内

《交通環境部物流課》

・物流施設業務/物流総合効率化法活用術

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/kikaku/file02_02_01/05.pdf

各種情報

《入札・契約情報》

・企画競争実施予定情報の公表について（6/3付け）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/pdf/koukyou/kikakukyousou_100603.pdf

・企画競争実施公示（6/7付け、2件）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/list2.html#KIKAKU_KOUJI

- ・工事入札公示（6 / 8 付け）

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/list.html#KOUJITOU_UKE01

《九州統計情報》

- ・管内港別港湾運送事業者数

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/toukei/kouwan/kouwan22_4_1.pdf

《行政処分状況》

- ・自動車整備事業者の行政処分状況（5 / 3 1 付け及び6 / 3 付け）

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/seibi/seibi.htm>

分野別情報

《物流》

- ・流通業務の総合化及び効率化の促進に関する法律

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/kikaku/file02_02_01.htm

《バリアフリー》

- ・バリアフリー教室の実施状況

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/koutuu/file07/kyousitu_21.pdf

《バス・タクシー・トラック》

- ・タクシーの特定地域協議会（大分市、別府市 第2回、第3回議事概要等掲載）

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/jidousya_k/file18.html

報道発表

- ・～集まれ 若人よ！～

「2010 海へのチャレンジフェア in FUKUOKA」を開催

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2010-0608-1259-43_2.pdf

- ・香港で開催される「香港国際旅游展（ITE2010）」に出展します！

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2010-0609-0912-43.pdf>

- ・船舶への貨物の積み卸し実績、2年連続で前年度を割り込む

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2010-0609-1325-43.pdf>

お知らせ

・平成22年度 福岡運輸支局整備管理者定期研修の開催について

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/files/2010-0607-1045-43.pdf>

・「海事立国フォーラム in 福岡 2010」を開催します。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/file001_022/2010-0609-0833-43.htm

2 現場レポート

【クルーズ船が年間200隻入港予定】

～平成22年度九州クルーズ振興協議会総会開催～

平成22年6月2日(水)に「平成22年度九州クルーズ振興協議会総会」を九州運輸局において開催しました。

当協議会はクルーズ振興を図ることで九州全体の地域振興に寄与することを目的とし、平成15年11月に発足しました。

発足以来、6年が経過しましたが九州の各港への外航クルーズ客船の入港は着実に増加しており、今年は200隻を超える入港予定(全国第1位)となっています。

特に、中国の海外旅行熱が高まり、博多港における今年のクルーズ客船の入港は昨年の2倍の83隻の予定となっています。

当日は、会員約60名参加のもと、田中会長(JR九州株式会社相談役)及び澤山九州運輸局次長の挨拶のあと、事業計画・収支報告等が承認され、平成22年度の事業計画として“船内見学会とセミナーの実施”、“クルーズ船九州寄港予定パンフレット(平成23年度版)”の作成などが決定されました。

その後、自治体(福岡市、長崎県)のクルーズ船誘致活動や九州運輸局企画観光部国際観光課から“観光立国の意義と国際観光の推進”について現状報告があり、最後に郵船トラベル株式会社クルーズセンター大阪 澤田所長より、「寄港地に望むもの」と題し講演を頂き、会員各位の今後の活動の一助となる有意義なものとなりました。

今後とも、九州地方ならではの観光資源などを最大限に活用したクルーズ振興を図るために、引き続き活動して参ります。

(九州クルーズ振興協議会事務局)

関門トンネル総合防災訓練について

九州旅客鉄道株式会社(以下「JR九州」という。)が6月2日に実施した「第57回関門トンネル総合防災訓練」を視察したので報告します。

当該トンネルは下関駅～門司駅間の長さ約3600mのトンネルで下りトンネルと上りトンネルの2本でできています。昭和11年に起工し下りトンネルは昭和17年7月完成、上りトンネルは昭和19年9月に完成しました。

トンネルの湧水は600トン/日あり、更に維持補修に年間数億円掛かっているそうです。さて、訓練は昭和28年に豪雨により門司駅を襲った土砂や濁水が当該トンネルに流れ込み水没し21日間復旧できなかった災害を契機として昭和30年から毎年6月に内容を変えて実施しています。

今年の訓練は、救助訓練と防災訓練を実施。救助訓練は故障によりトンネル内に立ち往生した列車をJR貨物のディーゼル機関車で連結してトンネルから門司駅まで引き上げる内容で復旧現場本部と福岡市内の運転指令所と門司駅が無線で連携をとりながら規定に従い確実に実施されていました。規定に従い?と思われる方がいるかもしれませんが鉄道の世界では、各種災害等に対しなすべき事項や手順を定めた規定があるのです。

次に防災訓練です。トンネルに大量の雨水が流入する恐れがあるとの想定です。「防水扉取扱基準規定」に従い、始めに電力関係の社員がトンネル上部の電気が通っている電線を切断しトンネル内の架線に電気が流れないように措置します。

その後、施設関係の社員がトンネル入口に設置してある観音式鉄扉(高さ5,7m幅5m程度)を人力で閉扉し更に隙間に土嚢を積み上げて防水します。なお、訓練であり片方の線路は営業列車が絶えず走行しているので閉扉しない。いずれの訓練も緊張感の中きびきびとした行動で実施されていました。この訓練は、警察、消防、JR貨物、JR西日本も参加し約150名規模で実施されました。トンネルが2度と水没しないことを祈ります。なお、トンネル内は涼しく爽やかでした。

(鉄道部 安全指導課)

『バリアフリー教室 in ながさき』

～さるくガイドと大学生との老若ペアによる体験～

九州運輸局は、6月8日、高齢者・障がい者等の疑似体験やその介助体験をすることで、バリアフリーへの理解を深めるとともにボランティアに関する意識を醸成してもらおうと、長崎駅周辺（JR九州長崎駅、アミュプラザ長崎、長崎県営バスターミナル）において、「バリアフリー教室 in ながさき」を開催しました。

今回の教室には、長崎さるくガイド18名と長崎大学作業療法学専攻の学生18名、計36名が参加し、さるくガイドと大学生による世代を越えた老若ペアによる体験を試みました。

開講式の後、車いす体験班とアイマスク歩行体験班の2班に分かれて、駅構内での列車乗降体験とコースに沿った疑似体験および介助体験を行いました。最初はとまどっていたペアも徐々にコミュニケーションがとれ会話が弾んでいく様子が見て取れました。

体験を行う各ポイントでは九州運輸局のバリアフリーアドバイザーである森講師や長崎県視覚障害者協会長の野口講師より、障がい者当事者の観点から問題点や注意点などを受講者に説明して頂きました。

質問・感想コーナーでは、受講者から「先天的な視覚障害者と中途障害者との状況説明するにあたり、違いがあるのか？」との質問があり、講師の方からは「特に気にしないで、同じような説明をして頂ければいいですよ。視覚障害者は、提供してくれる情報から、風景や情景を感じているのです。」との説明されたり、「車いすを体験して、券売機の位置が高すぎて、見えなかったりしました。」という感想には、「車いすより高い所、低い所、遠い所全てがバリアとなる事を認識して欲しい。」との説明があり、受講者の方々や運営スタッフの中にもなるほどと感心しきりでした。

最後に、受講者には、修了証を交付し、併せて、『バリアフリーボランティア証』を交付しました。この『バリアフリーボランティア証』は、障がい者や高齢者が困っているのを見かけたら「何かお手伝い出来る事はありますか。」という意識を受講者の方々を持ってもらうために今年度から交付するものです。

なお、教室の様子は、下記URLからご覧頂けます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_85.pdf

(交通環境部 消費者行政・情報課)

3 リレーコラム

佐世保に20数年ぶりに2回目の勤務をすることになりましたが、今回は単身赴任で毎日の食事の支度に追われ苦労しています。

コラムの順番となり、無芸・無趣味の私は、何を書けばいいのだろうかと悩みましたが、食べ物でも紹介することとして、一般的な佐世保バーガーと佐世保のレモステーキを紹介することで勘弁して貰うこととします。

まず、佐世保バーガーは、市内で販売されている、手作りのハンバーガーで1950年（昭和25年）頃からアメリカ軍基地周辺で軍人から直接レシピを聞いて作り始めたのがはじまりで、その後、ハンバーガーショップが増え始めた歴史があるとのことでハンバーガー伝来の地ともいわれ、現在のご当地ハンバーガーの元祖であります。

佐世保市内の店で提供される「手作りで」「注文に応じて（作り置きをしない）」こだわりを持ったハンバーガーの総称だそうです。

平成の初め頃は県外はもちろん地元でもあまり注目されていなかったそうです。

2001年佐世保市のプレ市政100周年事業の一環として地域興しの一環としてPRしたのがきっかけで知名度を上げていったということです。

佐世保市ではブームとともに品質を守るために認定制度を創設しているが拘束力はないので食べられるときは注意が必要とのことです。

「佐世保バーガーマップ」には沢山のハンバガーショップ（34店）が掲載されており、各店趣向が違ふようであり全店制覇を目指したいものです。

レモステーキについては、ステーキはボリュームがありすぎてちょっと重いということで、ある料理人が牛肉を薄くスライスし鉄板の上で焼き、醤油ベースのオリジナルソースかけたものであるらしい（未賞味ですが）。ソースをご飯にかけたりとか、食べ方にもいろいろとあるらしいから試してみたいものです。

ゴールデンウィークは終わりましたが、佐世保においでになり昼は観光、夜は食事を楽しんでみてはいかがでしょうか。

（佐世保自動車検査登録事務所長 江頭 国之）

【編集部より】

編集部では、新着の報道発表資料やその他の情報を発信します。

皆様のお知りになりたい情報やご意見・ご要望等ございましたら、お気軽に編集部までご連絡ください。

九州運輸局メールマガジン編集長（九州運輸局総務部広報対策官）

藤原 寿男（ふじわら としお）

mail : mm-kyushu@qst.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192

九州運輸局メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/top.html